

## ■提言としての意見の一例

### 全体規模について

中途半端にお金をかけず、もっと大規模な事業をしたほうが良い。

構想には賛成だが49億円は使いすぎ。9階建ての住宅建設はやめて、4階の公共施設までにする。

### 商業スペースについて

オープンカフェがほしい。

郊外店にないブティック、宝石店、生活雑貨店を集め、ファッションストリートとする。

上質なスーパーマーケットをメインに考えるべき。スポーツジム、シネマスポットなどがあると良い。

### 公共スペースについて

映像などを利用し、ITの様々な形態を簡単に勉強できる場所があると良い。

子どもが遊んだり、預けている間、母親同士が集まって話ができたり、ゆっくり買い物ができるスペースを整備すること。また、子どもの情報が全てそろったスペースにして欲しい。

### 住居スペースについて

商業施設のにぎわいにより、住宅は快適性を失ってしまうので設置すべきではない。

住人にとって魅力あるものとするため、公共性、文化性、質の高さを備えること。

### 駐車場について

駐車場だけはしっかり確保して欲しい。

駐車場は駅周辺に必要数あり、特別に整備する必要はない。

### 広場について

市民参加のイベントを月1~2回開催して欲しい。照明をやわらかくしたような穏やかなスペースがあると、ちょっと出かけてみようかなと思う。

### その他の意見

大切なのは、新しいまちづくりをする人たちの協力。協力者たちの活動促進の場を作るべき。

100円循環バスなど、中心市街地の回遊性を高める交通体系を充実させること。

中心市街地にふさわしいデザイン(建物の形、壁面の色彩)でシンボリックな建物とすること。

## 活性化委員会から 提出された



### 意見書の概要

朝市や気軽なイベントなどの開催、ちょっとした飲食店、鳥取のシンボルとなるデザインの採用など多くの積極的な提案がありました。これらについては、整備計画の検討において反映させるよう要望します。

大型駐車場、シネマスポット、スポーツ施設の設置などの提案については、都心の「機能と配置」を考えながら、今後の「中心市街地活性化プロジェクト」の中で検討するよう要望します。

中心市街地には新たな再生の可能性がないという判断に立った意見、景気が低迷している中で新たな投資は無駄であるという意見など、活性化委員会が提案した構想の考え方と異なる意見が寄せられています。市民の意見交換の機会は今後も十分設ける必要がありますが、弥生にぎわい拠点整備の早期実現を求める声も多くあります。よって、現在の中心市街地の再生は早期に行動に移す必要があると考えています。これらの意見に対して、さまざまな機会を通じて鳥取市等の考え方を説明し、理解を求めていくことが必要であると考えます。



### フォーラムを開催

さる十月二十七日、整備

構想案を提案した弥生にぎわい拠点活性化委員会(会長・霜田稔鳥取大学教授・委員二十人)主催により「弥生にぎわいフォーラム」が開催されました。

参加者からは、中心市街地活性化の重要性に理解を示す意見が多く出されましたが、異論反論の中から合意を形成していくという柔軟な姿勢も必要ではないかといった指摘もありました。これを受けて活性化委員会

は市民政策コメントでの意見もふまえ、鳥取市に対し意見書を提出しました。

### 今後の取り組み

鳥取市は、市民政策コメントやフォーラムでいただいたご意見、さらには活性化委員会の意見書をふまえ、三月末をめどに整備計画(案)を取りまとめ、再度、市民政策コメントを行う予定です。今後とも関心を持っていただき、多くのご意見をお寄せください。問い合わせ先 都市計画課(☎20 3276)